

2018年 1月 31日

七変化・百面相よろしく、私たちは日々それぞれの場面で様々な役割を演じたり、いろいろな表現や表情をして過していることでしょう。

大人は特定のグループの中に入れば、担っている立場の顔をし、行動しなくてはいけないこともあるかもしれません。高校生の女の子のグループでは、メンバーのそれぞれは無言の「〜らしさ」が与えられ、その中に同じ“キャラ”が重ならないように振る舞わないと、放り出されてしまうこともあるそうです。

仕舞に……もちろん一人ひとり誰しも首尾一貫しているとは思っていませんが……自分が本来どういう性格や特徴があるのかも、どのように生きていきたいと願っているのかも、分からなくなってしまいそうです。

私は人生は演劇なのだと感じています。

人生の様々な関係性が生きる舞台の中で、ひとつひとつの時を役者のように、そして同時にその一部始終の展開を見守る演出家として、一回限りの魂を振るわす公演を真剣に生きたい!と思っています。

あれっ、うさぎがねずみがのねずみが……動き回っています。幼稚園中、動物たちがいっぱいです。

キツネがもぐらが……ご自慢のしっぽや眼鏡を見せてくれます。

動物たちが美味しいカステラをご馳走してくれたり、帽子や洋服を作ってくれました。

たのしそうな音楽が聴こえてきます。よろこびにあふれるダンスを見せてくれます。

子どもたちはお話の世界を生きていて、自分がお気に入りの動物たちにそのまま変身です。

昨日はたこのコーナーが大繁盛でしたが、風を感じて走っている子どもたちは、風そのものになっているのかもしれませんが。

トロリをとろとろ心地よさそうに、くるりくるりとかき回している時も、トロリの自分なのでしょう。

幼い子どもたちは、何にでもなれてしまうのでしょうか。

私たちが立場や役割や関係性の中で生きるときにも、外側から外ワクから求められてキャストイングされるときでさえ、既に決まった役のイメージを不自由に、仕方なく演じるのではなく、人生の演劇の舞台の大切な役柄をはじめてのこととして、伸びやかにデザインして役作りを進めていきたいと思います。

演劇はウソの世界ではなく、凝縮した象徴的な真実のドラマなのです。

客席から観るときも、舞台上立って演じるときも、立ち合いであれ、表現する側であれ……共有するということは、自由に向かって私たち一人ひとりの魂の世界の可能性をふくらませる、かっぱいの作業の時なのではないでしょうか。

「大きくなった発表会」… 子どもたちはドキドキ わくわく劇あそびをたのしむことでしょう。

私たちも“人生という舞台”をあらためて感じる、大切な時になるかもしれませんね。

大人も子どもも、共によき時間を！

園長 升光 泰雄